

# 農業

## 開国

2

### 数字でみる

江戸時代を描いた時代劇で、「加賀百万石」などという表現を見聞きする。現

代なら「国内総生産（GDP）は何円」と表す経済規模を、かつてはコメの収穫量で表した。

1石とは、大人1人が1

# 50石の武士は「年収1500万円」

年間食べるコメの平均的な量だ。それだけのコメがとれる田んぼの広さを1反

と言う。ともに、人を基準にした秤だった。

水の重さや地球の大きさを基準に組み立てた、現代風の秤に直せば、1石は1

50〜160キ・タ。1反は約10ア（1000平方

ア）でテニスコート4面分、

野球の内野より一回り大き

いくらいの広さになる。

磯田道史さんの著書「武

士の家計簿」（新潮新書）

によれば、加賀前田家の直

参で、藩の会計係「御算用

者」だった猪山家の年収は、

う逸話だ。

玄米にして約51石だった。

1石は貨幣でおよそ1両に

あたり、日本銀行によると、

質金水準を基に現在の感覚

に直すと30万〜40万円に相

当するという。猪山家の年

収は1500万円を超え、

親子4代と住み込みの召し

使い2人が暮らしていた。

2001年に小泉純一郎

首相（当時）が国会の所信

表明演説で引用した故事

「米百俵」は、1200万〜1600万円にあたる。幕末の戊辰戦争に敗れ困窮した長岡藩が、見舞金として送られたコメを売って学校の建設資金に充てたという逸話だ。

コメ作りは先祖伝来の田んぼを守りながら続けられてきたため、反を単位とした名残が今もある。コメの生産調整は「減反」と言い、10アあたりの収穫量を「反収」と呼ぶ。機械化や品種改良、農業など技術の進歩によって、現在の反収は約520キ・タと、かつての1石を大きく上回る。

ただ、単位面積当たりの収穫量に関する2009年の統計では、日本は世界で14位と高い水準ではない。米、豪など大規模集約農業を行っている国で効率が高まる傾向がある。

（経済部 笹子美奈子）

江戸時代の「コメの価値は現在では…

	<b>1石 = 100升 = 2.5俵</b> 約150~160キ・タ 30万~40万円
	<b>1俵 = 40升</b> 約60キ・タ 12万~16万円
	<b>1斗 = 10升</b> 約15~16キ・タ 3万~4万円
	<b>1升 = 10合</b> 約1.5~1.6キ・タ 3000~4000円
	<b>1合</b> 180キ・タ (150~160ア) 300~400円

※日本銀行ホームページなどから作成。金額は質金水準から現在の価値に換算

### コメの収穫量の推移

（農林水産省資料より作成）

